



YU-Information

No.134 山口大学から未来へ
つなぐ

2019

山口大学広報誌

8



ファボ
学生のための福利厚生施設 (FAVO)
令和元年10月オープン



ダイバーシティ・キャンパスのシンボル

吉田キャンパスの総合図書館前、キャンパスの中央に位置し皆が行き交う場所に、学部を越え、国籍を越え、多様な人々が出会い、自由に語り、学ぶ、集いの場が誕生。FAVO が、あなたのお気に入り favorite のひとつになりますように。

集いの場には美味しい食！
カフェテリア、カフェ、ベーカリー。海外メニューや学生考案メニューなどバリエーションも豊富。



多目的ルームやワークショップルーム！
仲間を集め、試行錯誤を繰り返す、そこから生まれる新たな発信。



暮らしサポート
住まい、書籍、旅行、アルバイトの紹介まで欲しい情報が充実。

FAVO

今日、
ファボろう♪

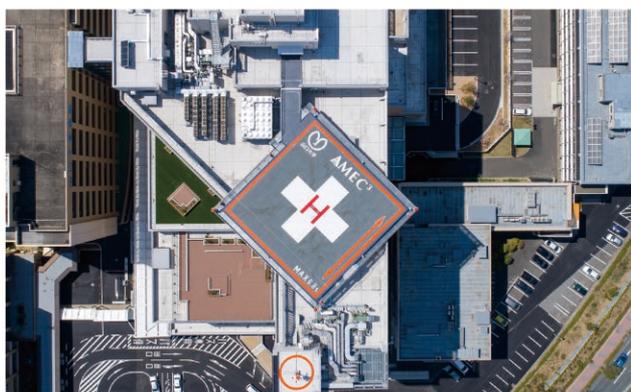


山口大学医学部附属病院 再開発整備事業

医学部附属病院新病棟開院 令和元年6月 新病棟開院

Your Health, Our Wish
—あなたのために—

山口県唯一の特定機能病院としての
誇りを胸に、皆様の頼りになる
病院を目指します。



山口大学医学部附属病院は 2015 年から国立大学病院として初となる
2 回目の再開発事業を進めてきました。
附属病院は、地域医療の充実と世界レベルの先進医療の開発、
医療プロフェッショナルの育成を使命としています。
引き続き 2025 年まで再開発事業は続きます。御支援ください。

新病棟ウオッチ

- 屋上ヘリポートから手術室、集中治療部へ直結
- 先進医療機器が整備された手術室
- 総合周産期母子医療センター、新生児用ドクターカー
- 災害用臨時治療スペースとなるオーデトリウム
- KIGI のホスピタルアートと小児科病棟



山口大学から未来へつなぐ

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)

その基本は、No One Left Behind (だれ一人とり残さない) というもので、人々の多様性を最大限尊重することを目指しています。

山口大学は創基 200 周年を迎えた 2015 年に「明日の山口大学ビジョン 2015」を策定。2025 年に向けて、歴史、文化、民族、言語、宗教などの多様性を許容する「ダイバーシティ・キャンパス」の創造を推進しているところです。

基幹総合大学としての多様で最先端の研究。多様性から生まれる新たな価値の創造。

発見し、はぐくみ、かたちにする知の広場。山口大学は、将来世代につなぐ未来に貢献します。



2018
11月

山口きらめき企業の魅力発見フェア2018 (Jobフェア)を開催

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の重要な取り組みのひとつである Job フェアを開催しました。同事業は若者の地元定着や企業が求める人材育成による地方創生を目的としており、3回目を迎えた Job フェアには過去最多の84社が出展、大学生の他、高校生や保護者を含む約1,500名の来場がありました。



12月

山口県および山口市、株式会社島津製作所と技術連携に関する基本合意書を締結

全国でも先駆的な取組として、認知症の早期発見・予防を通じた県民の健康寿命の延伸やこれに関連したヘルスケア産業の創出などの共同事業を展開するため、「健康づくり等をテーマとした技術連携に関する基本合意書」を四者で締結しました。



2019
3月

医学部総合研究棟竣工記念式典を開催

5階建ての建物内には、ICTの充実など魅力的な教育環境を整備、最先端の医学研究を推進します。愛称は、学生・教職員による応募の中から医学・医療を修練する場「医修館」に決まりました。



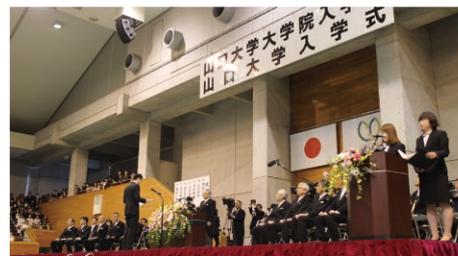
2,421名巣立つ! 平成30年度学位記授与式および大学院修了式、卒業式を挙行

大学院生博士課程62名、修士課程等496名に学位記を授与、学部生1,863名に卒業証書・学位記を授与しました。

4月

2,531名の笑顔! 平成31年度入学式を挙行

岡 正朗学長から大学院生523名、学部生2,008名に入学が許可されました。式辞では「皆さんの未来の姿を想像し、さらなる高みを目指してください」と激励の言葉が贈られました。



大学院教育学研究科を改組

「教職実践高度化専攻(教職大学院)を拡充、実践的指導力に秀でた教員を養成」特別支援教育コースを新設するとともに、既存の教育実践開発コースの授業科目に、教科や幼児教育の領域に関する科目を加え、充実を図りました。

「学校臨床心理学専攻を新設」現代の子どもや学校教育に関する課題について多面的に探求し、それにこたえる実践力を持った専門的職業人を養成します。

4月

SOGIを尊重する 基本理念と 対応ガイドラインを施行



近年、セクシュアルマイノリティに関する認知は進んできたものの、当事者の抱える悩みや生きづらさについては十分に理解が進んでいない状況です。ダイバーシティ・キャンパスの実現を目指す本学は、性別、国籍や年齢などの多様性を高め、各自の個性と能力が最大限に発揮できるような環境の整備を進める一環として、「多様な性的指向と性自認(SOGI: ソジ)を尊重する基本理念と対応ガイドライン」を策定、施行しました。

宇部市と社会連携講座を設置



自治体等との地方創生の推進を目的に本学が新設した社会連携講座の第1号として、宇部市と社会連携講座「山口大学x宇部SDGsクリエイティブ人財育成講座」を設置しました。「テクノロジーアートxチャレンジ講座」「若者クリエイティブコンテナを活用したまちづくりに関する研究」を柱に学生や市民参加型の新しい手法による学びや交流の場の創出を図ります。

中高温微生物研究センター棟 開所式を開催



同センターは、平成21年に農学部にて発足、その後理系5学部(理、医、工、農、獣医)の微生物研究者による発酵・環境・病原微生物の「統合微生物学」の研究拠点として発展してきました。センター棟の建物完成により、国内外の大学や企業との共同研究の進展が期待される他、大学院創成科学研究科の専攻横断型課題解決型プロジェクト研究(CPOT教育)の活動拠点として利用されます。



YFL認定証授与式を開催

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」では、「やまぐち未来創生リーダー(YFL)」を育成する取り組みを行っています。大学入学時から3年間にわたる教育プログラムを履修し、修了したYFL認定第1期生30名に、岡 正朗学長から「YFL認定証」が授与されました。

国内4位にランクイン! THE世界大学インパクトランキング

イギリスの高等教育専門誌(Times Higher Education)による「THE世界大学インパクトランキング2019」。国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」の枠組みを通して大学のミッションのひとつ社会貢献度をランキングするものです。本学は、総合順位で世界101~200位のグループに位置、国内4位の高評価を得ました。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

5月

日本行政書士会連合会およびコンピュータ ソフトウェア著作権協会と著作権に関する 協定を締結

三者の持つ強みを活かし、イノベーションを創出する人材育成のための知財創造教育を推進します。より効果的な普及啓発活動を進めるための「著作権の普及啓発に係る包括連携協力に関する協定」を締結しました。



鯖煮定食100円!ワンコインで生活リズムを整える 同窓会が支援、学生に好評

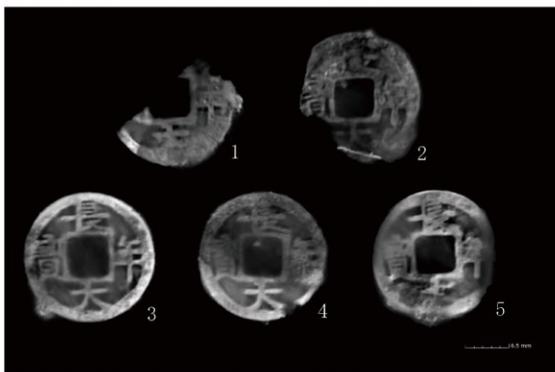


新入生を対象にゴールデンウィーク明けから、山口大学同窓会、大学生活協同組合、学校福祉協会の支援により、「ワンコイン(10・50・100)朝食事業」が実施されました。計6,693名(一日平均352名)の利用があり、3年目となる今年は鯖のしょうが煮定食が好評でした。学生アンケートから生活リズムを整え学業支援につながったことが窺えました。

人 文学部

人文学部の尾崎千佳准教授が編集委員を務めた『西山宗因全集』が文部科学大臣賞を受賞しました

日本・中国言語文学講座の尾崎千佳准教授が編集委員を務め、江戸時代初期に活躍した連歌師西山宗因(1605-1682)に関する全資料を網羅集成した『西山宗因全集』全6巻(八木書店刊)が、連歌・俳諧・俳句などの分野で優れた学術研究書に贈られる文部科学大臣賞を受賞しました。同全集は「尽きることのない基礎資料の宝庫」「現段階での宗因研究の頂点を示す」と評価され、「本全集により宗因の文芸上の立場が大きく書き換えられることとなる」と期待されています。



山口学研究センター 研究プロジェクト 「古代テクノポリス山口ーその解明と地域資産創出ー」

平成30年度の史跡周防鑄銭司跡の発掘調査では、大量の鑄造関連遺物の出土に加え、銭貨の鑄造に使用されたと考えられる複数の炉跡の検出、さらに、昨年度出土していた金属遺物がX線CT撮影によって「長年大宝：848年初鑄」の鑄損じ銭であることが判明し、この場所で古代の銭貨が鑄造されていたことをはじめ明らかになりました。また、大規模な構造物の痕跡や、山口県最大規模の井戸も検出され、「古代テクノポリス」の核をなす周防鑄銭司がいよいよその姿を現してきました。これらの成果は山口県内はもとより全国紙の文化欄でも取り上げられ、本県域がもつ歴史的、文化的特質の解明に向けて大きな弾みをつけることができました。

教 育学部

教育学部卒業生の教員正規採用率が 2年連続で全国1位

文部科学省公表の平成30年3月の教員養成課程卒業者の就職状況において、本学教育学部の教員正規採用率(卒業生数に対する割合)は、昨年に引続き全国の国立44大学中、第1位となりました。また、臨時的任用を含む採用率では2位(前年4位)でした。本学教育学部は、山口県教育委員会や山口市教育委員会等との連携協力のもと協働型教員養成・教職研修事業「ちゃぶ台プログラム」の取組を進めるなど、教員養成の充実を図っています。



大学院教育学研究科が「山口大学サテライトラボ萩」で 公開授業を実施

教育学研究科教職実践高度化専攻(教職大学院)では、令和元年7月2日、本学サテライト施設である「山口大学サテライトラボ萩」において、学校経営コース2年生の公開授業「学校経営と組織開発」を「特色ある小・中・高等学校の学校経営に学ぶ」をテーマとして実施しました。萩市内の小・中・高等学校の校長から、それぞれの実践活動について直に話を聞くことができ、多くの学びがありました。また、この授業を萩市内の小・中学校の校長や萩市教育委員会指導主事をはじめ、一般市民の方々も参観され、とても充実した授業となりました。



経 済 学 部

公認会計士試験に5名が合格

平成30年12月20日、経済学部経営学科職業会計人コース4年生の田淵冬馬さん、丹羽優太郎さん、横田旺大さん、3年生の穂本秀雄さん、大中敢平さんが公認会計士の試験に合格しました。この学生らには、学部長よりSumma賞の表彰状と楯並びに、鳳陽会から副賞が贈られました。2018年度の合格者は1,305人、合格率は11.1%という狭き門であったにもかかわらず、5人は見事難関を突破しました。



JICA開発大学院連携プログラムに選定

平成14年に2名のバングラデシュ留学生からスタートした経済学研究科経済学専攻公共管理コースは、長年の実績が認められ、令和元年度以降、JICA開発大学院連携プログラムとして位置づけられることになりました。現在はバングラデシュやラオスなど東南アジアだけでなく、カーボベルデ共和国やアフガニスタンなどアフリカ・中東からも留学生が多数入学しています。「山口から世界へ」さらに大きく展開が期待されます。

理 学 部

大学生・大学院生が主役 毎年恒例 「山口大学理学部サイエンスワールド」開催

地域の子どもたちを中心に一般市民の皆様にも自然科学の魅力を伝えることを目的に毎年「山口大学理学部サイエンスワールド」を開催しています。この催しの主役は大学生と大学院生。学生がグループとなり学生主導で自然科学の魅力を伝える企画を考え、準備を行い、当日、来場者に説明します。毎年1,000人以上の方が来場して下さる恒例行事であり、今年で21回目を迎えます。今年は10月26日(土)に山口大学吉田キャンパスで開催します。



国際化推進!短期留学生受け入れと理学部学生の 海外派遣プログラム

国際化推進のため、理学部では8月末の10日間、「サイエンス・サマープログラム」を開催し留学生を受け入れています。平成30年度は中国、韓国、台湾の7大学から30名の留学生が来学しました。自然科学に関する体験学習や地域の高校生との交流を行っています。理学部の学生も留学生のサポートをします。3月には台湾師範大学のスプリングプログラムに理学部生を派遣しています。平成30年度は12名の学生を海外に派遣しました。

医 学 部

最新治療を紹介「知っちょる? 山大病院」

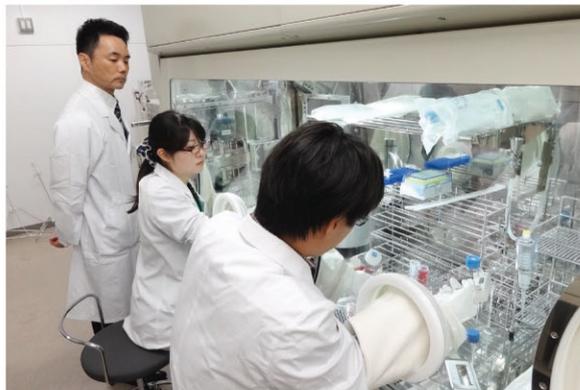
医学部附属病院は、最新治療を分かりやすく紹介する映像「知っちょる? 山大病院」を制作し、平成30年11月より山口ケーブルビジョンで放送中です。各診療科で今のような治療が行われているのか、専門の医師が分かりやすく解説しています。映像は本院ホームページでも公開しています。ぜひご覧ください。



医学部

全国初！「臨床培養士制度」の申請条件を満たす教育機関に認定

大学院医学系研究科保健学専攻（博士前期課程）が、全国初の「臨床培養士制度」の申請条件を満たす教育機関に認定されました。具体的には、同専攻が開設している「臨床培養士養成コース」の1年次の単位を取得し、日本再生医療学会指定教育講習会を受講することで、大学院在学中に臨床培養士受験資格の申請が可能となります。今後も次世代の医療技術として期待される再生医療・細胞療法を担う高度な医療専門職業人の育成に寄与してまいります。



工学部

「NASA スペースアップスチャレンジ」グローバルファイナリスト（トップ25）に日本で唯一選定

NASAやJAXAなどが公開している宇宙関連のオープンデータを使い、アプリやプロダクトを開発する世界同時開催イベント「NASAスペースアップスチャレンジ」が東京など日本の6会場を含む世界約200以上の都市で開催され、本イベントに参加した大学院創成科学研究科宇宙利用工学研究室のチームがグローバルファイナリスト（トップ25）に決定したことをNASAが発表しました。日本では唯一のチームでした。



ノーベル生理学医学賞受賞者「大村 智 先生 講演会」を開催

工学部は前身となる宇部高等工業学校の創立から今年で80年を迎えました。80周年記念事業として、平成27年にノーベル生理学医学賞を受賞された大村 智先生（北里大学 特別荣誉教授）をお招きし、講演会を開催しました。講演会では、次世代を担う青少年へ向けて「出会いを大切にする」「信頼を得ることが大切」などのメッセージを交えながら、これまでの研究活動をご紹介いただくとともに、事前登録の際に寄せられた質問にお答えいただきました。

農学部

大学院での専攻横断型課題解決型プロジェクト研究

大学院創成科学研究科では、平成30年度より、専攻横断型のプログラム（通称CPOT）を実施しています。2年目を迎える中高温微生物CPOTでは、「低炭素社会実現に向けた次世代型微生物発酵プロセス技術開発」を課題とし活動しています。3～4名の大学院生が小グループを作り、彼らが主体となって課題を見つけ、その解決策を議論し実践します。写真にあるCPOT会議室も整え、トップギアでがんばっています。



遠隔でディスカッションをしている様子

農学部

タイ・カセサート大学とのジョイント・ディグリープログラムを開設

大学院創成科学研究科に、令和2年4月から山口大学・カセサート大学国際連携農学生命科学専攻(ジョイント・ディグリープログラム)を開設します。ジョイント・ディグリープログラムとは、連携する大学間で開設された共同プログラムを受講し、連携する大学が連名で単一の学位を授与する仕組みです。カセサート大学は、タイ王国における最初の国立農業大学であり、現在は学生が6万人を超える総合大学です。同大学の持つ豊富な熱帯性資源を活用してよりレベルの高い教育・研究を行うとともに、カセサート大学の学生を受け入れることで、本学の国際的な教育の向上を目指します。



平成30年12月の両学長による協定調印の様子

共同獣医学部

動物福祉への取組「ゼロ・プロジェクト」

共同獣医学部では、動物福祉を基盤とした教育を実践しており、令和3年度までに生体を使った侵襲性の高い実習を原則実施しない方針「ゼロ・プロジェクト」を定め、動物モデルを活用した実習やスキルスラボ(診療で必要となる基本的な技術をシミュレーターを用いて練習できる施設)での自学自習を推進しています。



スキルスラボでの動物モデルを使った自学自習(採血の練習風景)



学長への認定報告(向かって左から、佐藤学部長、岡学長、奥田副学部長)

「大学基準協会・獣医学教育評価」において『基準に適合している』と認定

共同獣医学部では、「獣医学教育評価(評価主体:大学基準協会)」を受審し、日本における獣医学教育の『基準に適合している』と認定されました(認定期間:平成31年度~令和7年度)。令和元年6月には欧州獣医学教育機関協会(EAEVE)による訪問審査を受審し、同年12月の認証決定を待っている状況です。この認証が得られればアジアで初めての快挙であり、本学で国際水準の獣医学教育が行われていることが証明されることとなります。

国際総合科学部

「えらぼう留学の先!!」(学部公認学生サークル「FGSSER」による留学フェア)を開催

先輩が後輩をサポートする留学相談会が毎年11月に開かれます。国際総合科学部では、2年生後期からの1年間は留学に充てられ、コミュニケーション能力や課題解決能力を育む幅広い知識や経験を積む時間としてカリキュラムに組み込まれています。準備も含め自らの経験が大切とはいえ、旅立つ2年生のために上級生や留学生が、様々な留学ノウハウを伝授します。今年も留学先ごとに多くの後輩が質問をしていました。



「初めての卒業証書授与式」

平成31年3月、国際総合科学部として初めての卒業生を送り出しました。1年間の海外留学やプロジェクト型課題解決研究(PBL)で身に付けた社会での即戦力、学際的な幅広い知識を武器にして就職率は100%を達成しました。今求められている人材が育ったことを物語ります。第1期生は、卒業証書授与式で一人一人に手渡された卒業証書に喜びと期待と少々不安を携えて、社会へと羽ばたきました。今後はOB・OGとして、後輩たちを支援してくれれます。

“オールやまぐち”で若者の山口での活躍を応援!!

平成27年度からスタートしたCOC+は、地方の人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、地方創生につなげることを目的とした事業です。山口大学をはじめ県内の高等教育機関12、地方自治体20、民間企業136、経済団体等9団体が参画(令和元年7月)し、“オールやまぐち”で若者の活躍を応援しています。

全国最大規模

177機関
が連携

講演会



県知事、企業経営者ら各界のプロフェッショナルを招き学ぶ。

フィールドワーク

周防大島・長門仙崎・宇部市・山口市さまざまな地域へ展開。

地域や企業というフィールドに赴いて、地域の人たちや他学部・他大学の人たちとともに、地域や企業が抱える課題を解決するための手法について学ぶ授業を実施。



Jobフェア

世界トップシェアの企業・放送局・金融機関・食品関連企業・サービス業・製造業・建設業や自治体などの機関が集合。1,500名以上が来場した企業・自治体の魅力が見つかるフェア。

山口県内企業・自治体の機関、サービス、技術、商品等の紹介を通じた大学生へのキャリア教育を行う県内最大規模のイベントを実施。令和元年10月19日(土)、山口市の維新百年記念公園維新大晃アリーナにて開催。



COC+で取り組む教育プログラム(YFL 育成プログラム)

教育プログラム(YFL 育成プログラム)では、山口の様々な魅力などを、座学、フィールドワーク、課題解決型インターンシップなどの授業を通じて学んでいただき、山口県への若者定住促進を図ることなどを目的としています。

YFL 育成プログラム紹介動画

<https://youtu.be/vZltytg2hg>



「やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業」紹介サイトへのアクセス

YFL COC+

検索

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/coc-plus.html>



山口大学基金

山口大学は未来へはばたくあなたを応援します。

学生が安心して勉学に打ち込めるよう経済的支援を行い、グローバルマインドを身に付け、地域、そして世界で活躍する「未来の長州ファイブ」を育てます。

【支援実績】

支援学生：のべ600名超、11団体
支援総額：約1億3千万円

授業料支援

家計の急変で授業料納付が困難となったとき

1学期授業料相当額
(267,900円)、返還不要

七村奨学金

返還を要しない給付型奨学金、
年間63万円、4年又は6年間

海外留学経費の一部を支援

アジア地域 5万円
上記以外 10万円・15万円

山口大学基金は
多くの方のご厚意により
支えられています。

奨学金継続支援

長期インターンシップ・留学により
卒業期が延びたとき
所定の月額で本人希望額を貸与

企業・団体：411社
卒業生・同窓会：4,677名・47件
教職員：3,483名
保護者等：1,339名

外国人留学生(大学院生)への給付型奨学金

年間54万円、1年間

大会等で優秀な成績を挙げた課外活動、団体への支援

1団体 10万円

山口大学基金は、学生の修学支援の他、「教育・学術・文化の発展」に寄与するため、本学が行う「教育・研究」、「国際交流事業」、「地域連携活動事業」にも支援を行っています。

税法上の優遇措置等

個人からのご寄付：山口大学基金（学生の修学支援）へのご寄附は、確定申告により最大で **寄附額の約4割 + 住民税の約1割**^{*}が税額控除されます。

その他へのご寄付は、所得控除の対象になります。

^{*}住民税は、山口大学を「寄附金税額控除対象法人」として条例で指定している地方自治体の場合

法人等からのご寄付：寄附金の全額を損金処理できます。

基金に関する
お問合せ先

山口大学基金事務局

TEL：083-933-5622/5631 FAX：083-933-5624
E-mail：kikin@yamaguchi-u.ac.jp



Event Schedule

【イベントスケジュール】



YU-INFORMATION

No.134

山口大学広報誌

山口大学から
未来へつなぐ

8/9金

オープンキャンパス (小串キャンパス・医学部) (常盤キャンパス・工学部)

8/10土

オープンキャンパス

(吉田キャンパス・人文学部、教育学部、経済学部、理学部、農学部、共同獣医学部、国際総合科学部)

10/19土

Jobフェア山口きらめき企業の魅力発見フェア2019

(維新百年記念公園)

10/26土

第7回山口大学ホームカミングデー (吉田キャンパス)

※理学部サイエンスワールド同時開催

※旧制山口高等学校創立100周年、山口大学文理学部創立70周年記念式典同時開催

11/3日4月

第75回医学祭 (小串キャンパス)

11/10日

第70回姫山祭 (吉田キャンパス)

11/16土

第70回常盤祭/第3回工学部ホームカミングデー (常盤キャンパス)

情報誌

「Academi-Q (アカデミック)」

平成30年4月創刊! 想定読者は小学生から大人まで。学内のおもしろい研究や活動を学生ライターが取材し読者の立場から分かりやすく解説します。

「Academi-Q」は学術(Academic)の不思議(Question)が、高品質(Quality)で、すぐに(Quick)わかることを目指して付けました。

「学び」の楽しさを見つける【アカデミック】



【Web版 Academi-Q】

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/academiq.html>

Cover Story

山口大学から未来へつなぐ
国連が掲げる、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)。

貧困の撲滅、平和の構築など、そして地球の環境を守りながら経済の成長も続けられるように…。

山口大学は地域の基幹総合大学として、教育、研究、社会貢献を通じて、未来を創造する知の広場です。山口大学から未来へつなぐ。そして山口大学を未来へつなぐ。引き続き、皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

YU-PRSS
広報学生スタッフ
も活躍中!

YU-INFORMATION

ワイユーインフォメーション
山口大学広報誌 Vol.134

山口大学総務企画部総務課広報室

〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1

TEL:083-933-5007 FAX:083-933-5013

E-MAIL:sh011@yamaguchi-u.ac.jp

URL:<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>



You Tube



LINE 入試情報
配信!

